事例 No.09

住理工FCシール 株式会社

従業員数88人（出向者も含む）　業種：輸送用機械器具製造業

定着率 93%

人が定着する職場の秘訣

「理解してもらう」ことが定着への第一歩

●住理工FCシール 企画部　松井 紀宜

チームの連帯感を築く「立哨活動」

住理工FCシールは、住友理工株式会社の子会社で、燃料電池自動車の配電基盤などを製造しています。従業員の多くが派遣社員や親会社、関連会社からの出向社員で構成されており、さらには年齢層、国籍も様々。実に多様なバックグラウンドをもった人が集まった会社です。

そんな住理工FCシールですが、ラインの仕事は常にチームで行なうため、協調性が問われます。今回インタビューした松井さんによると、そうした環境の中で、以前はなかなか定着率が改善しなかったそうです。

そこで始めたのが、**会社の前で旗を持って立ち、自社をアピールする「立哨活動（りっしょうかつどう）」。これを続けることで、チームとしての連帯感が高まりました。**しかし、初めは乗り気でない従業員も多く、全員に前向きに取り組んでもらうのはなかなか困難だったとのこと。

それでも継続し、会社の活動として定着させられた、そのキーワードは「理解」でした。

命令するのではなくまずは理解してもらう

松井さんは、**立場も経験も様々な従業員たちのコンセンサスを取るには、「現場の理解を得ること」が大切**だと語ります。

立哨活動なら、まずは活動の意義を理性的に説明する。工場のトップや幹部から率先して活動を行う。そして、従業員に対して**「命令」するのではなく、会社のためにやろう、と認識を共有する。このように、トップも現場と同じ目線で取り組みを行うことが、現場の理解につながりました。**

仕事の任せ方も、「理解」に基づきます。各従業員の得手不得手をデータ化したうえで、頭ごなしに指示するのではなく、会社として何が必要で、何をするべきかをきちんと説明します。そうすることで、各自の仕事に対する責任感と自信が生まれるのです。

チーム内でも、上司は部下の目線に立つことを大切にします。例えば、部下から上への要望や報告があれば、その部下と一緒に上長のところへ行き、それを伝えます。上司がきちんとアクションをしているという姿を見せることが、理解を得るためには大切なのです。

「理解」を意識したチームづくりや取り組みを続けた結果、各自の経験ではなく、住理工FCシールの考え方に従業員が馴染み、定着率アップに結びつきました。

「なぜこの仕事が必要か」を意識することは、そのままやりがいにつながるのでしょう。

住理工FCシール株式会社
松井 紀宜さん
企画部

所在地／愛知県小牧市
電話番号／0565-25-2180

事例 No.10

山勝染工 株式会社

従業員数19人　業種：繊維工業

定着率 100%

人が定着する職場の秘訣

従業員同士が快く助け合える関係を築く

●山勝染工 代表取締役　中村 友亮

助け合いの気持ちで信頼関係を築く

名古屋の伝統工芸品である「名古屋黒紋付染」を手がける山勝染工は、大正8年の創業から現在に至るまで、100年近くの歴史を持つ老舗企業。その代表者である中村友亮さんにお話をうかがいました。

山勝染工は、伝統工芸品という性質上、製造業の中でも職人色の強い会社です。「職人」というと、一人ひとりが自分の技術一本を武器に黙々と作業するというイメージがありますが、そうではなくて、山勝染工では、チームワークを大切にしています。「小さい会社だからこそ、**自分の仕事が終わったから帰るのではなくて、大変なところがあったら、そこをみんなで助けられる関係**を作りたい」と、中村社長は語ります。

それこそがコミュニケーションであり、そういうことを当たり前にできる風土が、お互いの信頼関係を築いていくのです。

従業員への感謝もその家族への感謝も

従業員同士の助け合いを重視する中村社長は、「仕事を続けていくためには、結局のところ人間関係が一番大事」と話します。

そして、人間関係を作る上で、中村社長が目を向けるようにしているのは、従業員の家族です。たとえばバーベキューや忘年会などのイベントの時には、奥さんや旦那さん、子どもをみんな連れてきてもらっているそうです。

中村社長は、従業員に対してはいつも「働いてもらっている」という気持ちでいます。そして、従業員が働けるのは、それぞれ家族の存在があってこそ。だからこそ**従業員本人だけでなく、その家族に対しての感謝も示すことが大切**だということなのでしょう。

中村社長のこの想いは結果としても表れていて、この数年間、正社員の定着率は100%。正社員数4人と少数ではありますが、一人として辞めないというのは、それだけ従業員が仕事内容にも、職場環境にも、人間関係にも魅力を感じているということ。

社長が従業員に対して「働いてもらっている」と思っている一方で、従業員も「働かせてもらっている」という気持ちを持っていると言ってくれるそう。心の底からそう思えれば、自然と「従業員のために」「会社のために」という思いは自然と生まれてきます。

この**謙虚さを忘れない関係性**こそが、山勝染工の職場づくりの成果であり、定着する職場のあり方だと言えるでしょう。

山勝染工株式会社
中村 友亮さん
代表取締役

所在地／愛知県名古屋市西区
電話番号／052-523-1601